

多久の歴史

後多久家
初代多久邑主

た く やす とし
多久安順

～前編～

1566年～1884年 江戸時代前期の武将



今回と次回の2回に分けて、明治維新まで続いた後多久家の始まりである多久安順について紹介していきます。

永禄9年生まれ、龍造寺長信の子として誕生、初代多久邑主となり、龍造寺家久から改名し、多久長門安順と名乗っています。

20代の頃は、豊臣秀吉の九州出兵に龍造寺政家、★①鍋島直茂と共に出陣し、多久の手勢を率いて戦っています。天正15年(1587)、多久で鍋島直茂の正妻の娘、千鶴と結婚、鍋島家との結びつきが強くなりました。

その後、肥後一揆の鎮圧や、一族の龍造寺家晴を助けて諫早の西郷氏を討つなどの活躍を見せています。

豊臣秀吉の朝鮮出兵(★②文禄・慶長の役)では、文禄元年(1592)佐賀藩鍋島直茂は先陣を命ぜられ、兵一万二千と騎率いて3月に渡海。病気で遅れた家久は、4月に手勢八百と騎を率いて伊万里津より出航し5月に鍋島直茂と合流しました。慶長元年(1596)6月、明の使者が来朝して和議が成立し、諸軍の大半が帰国、家久も多久に帰りました。



多久安順の肖像▲



鍋島直茂の肖像▲

同年冬、明との和平が破れ、家久は再度渡海した。慶長3年8月、豊臣秀吉が亡くなり同年11月朝鮮在陣の諸将は各々帰国を始め、家久も帰国しました。



朝鮮出兵の基地である名護屋城模型【名護屋城博物館】▲

文禄・慶長の役では、帰国する時、多くの学者、技術者を連れて帰国したことはよく知られています。

鍋島直茂も多くの朝鮮人を連れて帰国しており、その中の陶工 ★③李参平 らを、家久が多久で預かり、陶工を行わせながら良い陶土の搜索を許したことから、肥前国磁器の源流が出来上がっていきました。



陶祖李参平の碑▲

次回の「議会だより」では、みなさんご存知の天下分け目の戦い「関ヶ原の戦い」の頃からの話を紹介します。



- ★① **鍋島直茂** 1538～1618 天文7年生まれ。肥前の土豪鍋島清房の子。肥前の戦国大名竜造寺隆信につかえ、その死後実権をにぎる。豊臣秀吉に龍造寺家領相続をみとめられ、文禄・慶長の役で朝鮮に出陣。関ヶ原の戦いでは西軍を攻め、徳川家康に領地を安堵された。慶長12年嫡子勝茂に家督をゆずり隠居。佐賀藩藩祖。元和4年6月3日死去。81歳。
- ★② **文禄・慶長の役** 天下統一を果たした豊臣秀吉は大明帝国の征服を目指し、配下の西国の諸大名を糾合して遠征軍を立ち上げ、朝鮮に服属を強要したが拒まれたため、遠征軍を朝鮮に差し向けた。休戦と交渉を挟んで、朝鮮半島を舞台に戦われたこの国際戦争は、16世紀における世界最大規模の戦争であった。
- ★③ **李参平** 生年不詳～1655 朝鮮出身の陶工で、「有田の陶祖・李参平」として知られている。日本名は金ヶ江 三兵衛。現在も直系の子孫が作陶活動などを行い、14代まで続いている。文禄・慶長の役で、鍋島直茂により日本に連行された。李参平が窯業に従事していたことを知り、多久安順に預けられ、多久家領内で陶器の生産を行ったが、生産に適した白磁石を探し求め、有田で良質で大量の白磁石「泉山磁石」を発見し、白磁器を産業として創業した。

UDFONT

画やすくて読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に優しい植物油
インキを使用しています。

議会広報委員会			
委員	委員	委員	委員
田淵 厚	平間 智治	小川 香月	三郎 正則
樺島 永二	副委員長	鷺崎 義彦	

